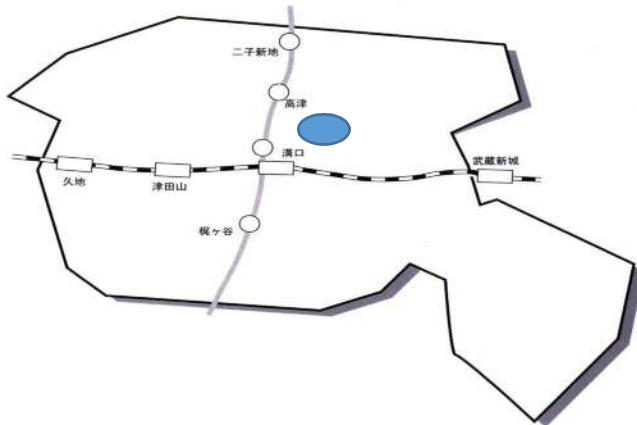


## 事例7 隣・愛クラブ(パークシティ溝の口自治会)

### 1 町の概要



パークシティ溝の口は溝の口駅から徒歩5分位の好立地にある1982年から1984年のあいだに竣工した合計12棟1103世帯からなる大規模マンションである。隣・愛クラブだけでなく、様々なコミュニティ活動が活発に行われている。

### 2 見守り活動が始まったきっかけ

隣・愛クラブの始まりは古く、当時はまだ高齢化が課題になっていなかった平成8年頃に今後の高齢化を見越して当時の民生委員児童委員が主となって始まった。立ち上げ当時から自治会所属団体として位置している。

活動が始まったころは家事を手伝う有償ヘルパーや入浴の介助なども行っていたが、出来るスタッフは限られ十分に支援をすることが難しくなったため現在のようなミニデイケアの形に移行し、現在に至っている。

### 3 活動の内容

現在は月に2回、第2木曜日と第4木曜日にパークシティ溝の口マンションの集会室で10時半から12時半頃まで開催している。平成30年度には通算500回の開催を迎える。

参加者は約20名。年齢制限はないが、80歳代が多く、90歳代の方も参加している。隣・愛クラブ開催日の1週間前には参加者にチラシ(「お誘い」)を配布している。なお、参加者からは毎回の参加費200円と年会費1,200

0円（月当り100円）、スタッフからも参加者と同額の毎回200円を費用負担してもらい、食材費や材料費などにあてている。

当日は体操（黄門体操）を行ったあとにイベントを開催している。フラダンスや大型紙芝居、大正琴を視聴したり、クリスマスツリーやデコパージュを作るなどイベントの内容は様々で、イベントが終わったら、参加者やスタッフで団らんしながら軽食をとっている。誕生日が近い参加者には皆でハッピーバースデーを歌いお祝いをして季節感のあるささやかなプレゼント（鉢植）を渡ししている。

隣・愛クラブに参加して顔見知りになり、近所でお茶をする方々もいるようで、見守りの場だけでなく、高齢者同士のつながりづくりの場にもなっている。

隣・愛クラブを運営するスタッフは約20名。毎回3人1組でリーダーになり、担当する開催日の内容や軽食の内容を考え、全てのスタッフに1週間前には周知（「計画書」の配布）している。会の終了後にはミーティングを行い、イベント内容・軽食の反省や参加者の様子（健康状態など）を共有している。スタッフからは、「人生の先輩から学ぶことは多く、生活の一部になっている」との声が聞かれ、スタッフ同士も和気あいあいと楽しんで活動している姿が印象的だった。

#### 4 今後の課題

マンション全体が高齢化しており、高齢化率は70%近くになっている。そのような中で参加者、スタッフともに高齢化してきており、現在の体制を維持していけるのかが課題となっているが、スタッフは長くつづけられるように、できる範囲の中でお互いに補いながら活動している。

